

令和4(2022)年度秋の行楽シーズンにおける日光地域の渋滞対策結果について

令和5(2023)年1月30日
県土整備部交通政策課

1 実施概要

(1) 実施期間

令和4(2022)年11月3日(木)～11月20日(日)のうち土日祝日の7日間

(2) 実施概要

- 1) 臨時駐車場の開設【実施主体：日光市、栃木県、国土交通省】
 - ・開設箇所：大谷川河川敷、日光土木事務所、日光砂防事務所
- 2) 迂回誘導【実施主体：日光市、栃木県、県道路公社】
- 3) SNS・ポスター・横断幕による情報提供
【実施主体：日光市、栃木県、県道路公社】
- 4) 臨時駐車場・東照宮駐車場等の利用者意見の収集【実施主体：栃木県】

2 結果

- 臨時駐車場の日平均利用台数は昨年度から微減している。
- 昨年度と比べ、日光宇都宮道路の交通量は微増した。国道119号では神橋を先頭に最大約1.4kmの渋滞が発生し、東武日光駅から神橋までの通過時間は最大約30分であった。
- SNSや市HPでの情報発信は、昨年度に引き続き一定数アクセスされている。
- AIカメラで把握した所要時間の発信は、10分間隔で更新される値をもとに過年度に比べきめ細やかな発信を行った。しかし、渋滞状況が急激に変化する時間帯では実測値との誤差が大きくなる傾向が確認された。
- 利用者アンケートでは、臨時駐車場はLED表示板よりも現地設置数の多い立て看板による周知の方が認知されており、渋滞情報の把握にはLED表示板や看板よりも地図アプリやカーナビ機能の方が多く活用されている。また、把握したい情報として、渋滞がいつどこでどの程度生じているのか、駐車場の場所や満空情報、目的地までの所要時間や渋滞回避の迂回ルートに関することが多く回答されている。

3 総括

- 臨時駐車場への迂回誘導は二社一寺周辺の渋滞抑制に一定の効果あげている。しかし、今年度の傾向として臨時駐車場の利用が例年より少なかった。一方、市全域では中宮祠地区において一部駐車場が長時間にわたり満車状態となり、いろは坂の渋滞要因となっている。時期により主な観光目的地が異なるため、来年度に向けて市と臨時駐車場の規模や位置について再検討していく。
- 今季は試行として所要時間をAIカメラの活用により把握し頻度を増やしてLED表示板やSNSにより情報発信していたが、発信媒体の認知が低いことから情報発信方法の見直しが必要である。
- 今後は、立て看板による臨時駐車場への迂回誘導の強化、AIカメラで得られたデータ等を活用した渋滞対策の検証、中宮祠地区から臨時駐車場への迂回誘導の見直しなどにより更なる渋滞緩和を図っていく。

		R1(2019)年	R2(2020)年	R3(2021)年	R4(2022)年
日光宇都宮道路(最大渋滞長日)					
日交通量(全区間合計)		56,354台	50,169台	34,076台	39,098台
日光IC日交通量		11,143台	8,759台	6,878台	7,597台
清滝IC日交通量		12,971台	11,960台	6,027台	7,709台
臨時駐車場	延べ利用台数	2,748台	1,090台	1,412台	1,003台
	最多利用日・台数	11/3(日) 840台	11/1(日) 474台	11/13(土) 279台	11/5(土) 217台
	開設日数	7日間	5日間	6日間	7日間
	日当たり平均利用台数	392台/日	218台/日	235台/日	143台/日
渋滞 国道119号	渋滞長最大日・延長 (今市方面→神橋)	11/3(日) 約3.7km	11/1(日) 約2.4km	11/13(土) 約1.7km	11/5(土) 約1.4km
	所要時間最大日・時間 (東武日光駅→神橋間)	11/3(日) 約60分	11/1(日) 約50分	11/14(日) 約30分	11/5(土) 約30分
日光渋滞対策 ツイッター	フォロー数	400人	450人	733人	986人
	インプレッション数 (見られた回数) 10/1～11/30	4.7万回	14.9万回	14.1万回	12.0万回
市HP	駐車場満空情報サイト アクセス数(R4年度～)	—	—	—	2.9万回 (11/1～11/20)

二社一寺周辺の過去の渋滞状況

(令和4(2022)年11月5日(土))

- 山内から伸びた渋滞により神橋交差点において先詰まりの渋滞が発生。
- 国道119号及び国道120号で渋滞が発生。

